

◆ 平成 29 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 食品リサイクル農園あさか

20A-33

代表者：代表 野口久美子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

家庭排出ゴミ減量は市民がすぐに取り組める課題であるが特に生ゴミは家庭排出ゴミの約 40%を占め殆ど焼却されている。発生した生ゴミを堆肥化し活用すれば、焼却費用削減、環境負荷の軽減、豊かな土壌・緑の保全等、環境保全効果大である。まず自ら実践し、全市民が参加する循環型社会構築が急がれる状況である。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

生ごみ・落葉等を拠点の畑へ持寄り堆肥を作製、共同作業で、無農薬、有機野菜を作っています。生ごみ減量資源化、豊かな土壌、美味しく安全な野菜作りを通し、小さな循環型社会構築を目指しています。啓発活動として、畑で体験学習、室内で講演会、展示会を実施。他団体との交流を深め、活動の普及、賛同者・協力者の増加を図り、行政との協働を進め、活動の拡大を図っています。

内容	実施期間	参加人数会員・参加者	活動実績
生ごみ持寄り	通年	8名/月×12月	2.5 t
落葉等収集	11月～1月	参加部署 5	4 t
有機野菜作り	水・土曜	延 400人/年	
なかよし体験講座	月・金曜	延 550人/年	
年間栽培講座	通年	延 60人 (3組/年)	
ジャガ芋・里芋講座	3月～11月	延 50人	
花まつりうどん店	4月	延 25人/2日	643杯



3. 活動の成果

生ごみ・落葉等計 6.5 t の焼却ごみ減量に寄与しました。又、じゃが芋・里芋 3 回講座の他年間栽培講座を、秋の収穫祭では焼き芋会を実施。生ごみ堆肥による有機野菜を実食体験すると共に次に繋がる会員・ボランティア予備軍を見込む事ができました。

恒例の花祭りうどん店の出店、福祉NPO法人なかよしネットの農園芸療法体験年間講座、市民活動祭りでの有機野菜販売も年々成果をあげ上げるようになってきました。

4. 今後に残された課題

会員増へ努力するも前年同数の 11 名に終わった。自立へ向け農園芸療法、栽培講座、農産物生産の強化効率化を図り、会員増への手がかかりとして強化する。

畑、堆肥製造地など必用地の確保には行政との協働が必要と思われる、ゴミ部門、農業部門、公園部門、福祉部門等との連携を強化し、行政の支援強化を働きかける。

